

寺社を巡る会

活動記録書

開催日： 平成31年1月11日（金） 晴れ	開催テーマ： 新春の逗子から葉山を巡る
開催場所：逗子・葉山	記入者：横山 美智男
参加人数：寺社を巡る会会員 男 23名 女 5名 計 28名 ビジター 男 0名 女 0名 計 0名 合計 28名	
<p>実施内容（実施の項目、方法、効果・成果、宿題 など）： コース：京急新逗子駅（集合）⇒亀岡八幡宮⇒延命寺（本堂昇堂）⇒宗泰寺⇒六代御前の墓 ⇒葉山港事務所（昼食）⇒旗立山⇒（バス）⇒森戸神社⇒（バス）⇒玉蔵院（特別拝観・解散）</p> <p>今年初の寺社巡りは新逗子駅前に集合した後、近くの逗子市役所前で新年の挨拶をしてスタートした。最初は逗子の鎮守、亀岡八幡宮へ。創建年は不明、亀の背中のような地形から亀岡八幡宮と名付けられたという。社殿の前には狛犬ならぬ狛亀が鎮座している。</p> <p>次に延命寺へ。本堂に上がり鎌倉ガイドの説明を受ける。弘法大師がここに設けた地蔵菩薩の厨子が、現在の逗子の地名発祥となったと「新編相模風土記稿」に伝えられる。鎌倉時代には三浦一族の祈願所となったが、その後北条早雲に攻められ三浦道香主従がこの地で自害した。湘南七福神の弁財天を祀っている。</p> <p>途中、承久の乱で敗れた三浦胤義の4人の子供が処刑された地と伝える碑に立ち寄ったのち、宗泰寺に到着。宗泰寺は鎌倉時代の創建と言われているが詳細は不明。製作年代が室町後期とされる阿弥陀如来や十王像が残る。湘南七福神の福德大国天を祀る。正月のためかお堂の入口直ぐに、大きな大黒天が安置されていて驚いた。</p> <p>次は桜山のふもとにある六代御前の墓に参る。六代御前は平清盛が率いた平氏一族六代目の最後の嫡流で名を高清という。平氏滅亡後に捕らえられたが、僧の文覚の助命により弟子となり妙覚と名乗った。しかし警戒され、ついには26歳の時にこの地で処刑された。墓前の田越川は御最後川とも言われる。</p> <p>昼食は葉山港事務所の3階。ヨットハーバー越しに富士山と江の島を遠望できる素敵な場所であった。</p> <p>昼食の後は、すぐ傍の旗立山（鐙摺山）に上る。治承元年（1177）源頼朝が訪れた時に、鐙が地に摺れたことから鐙摺山という名がついた。石橋山で旗揚げした源頼朝に呼応した三浦党は、この地の浜から援軍として出陣した。小坪あたりで三浦党と畠山重忠軍が遭遇し合戦になった時、総帥三浦義澄はこの山に旗を立て軍勢を鼓舞したとの伝説があり、旗立山とも呼ばれる。急な坂道を上ると300坪ほどの平坦地となっており、ここからも遠く富士山や江の島などが望まれた。</p> <p>バスで森戸海岸に移動し葉山の鎮守である森戸神社に参拝する。森戸神社は、源頼朝が信仰する三島明神（現三島大社）を勧請し、長く謝恩の誠をささげたと伝えられる。「吾妻鏡」によれば歴代将軍が自ら訪れ、流鏑馬などの武事や加持祈祷が行われ、七瀬祓の霊所としても重要な地であったと記される。神社裏手の岩山に源頼朝が褒め称えた千貫松がある。境内には詩碑、歌碑、記念碑など様々な石碑が目立つ。堀口大學の「花はいろ 人はこころ」の碑が妙に心に残った。</p> <p>再度バスで移動し、最後に葉山最古の古刹である玉蔵院を訪ねる。住職から寺の歴史や仏像などの説明を拝聴した。境内には主尊が阿弥陀如来の珍しい宝篋印塔や三猿の雌雄がはっきりとわかる珍しい庚申塔などがある。湘南七福神の恵比寿尊を祀っている。</p>	
<p>参加者の状況・意見など： 好天に恵まれて随所で富士山を眺めながら、今年初の寺社巡りを楽しんだ。寒さの影響か参加者が少なめだったのは少し残念であった。</p>	
<p>次回の予定： 2月7日（木）12：30 金沢地区センター 座学（DVD管掌「百寺巡礼」）</p>	